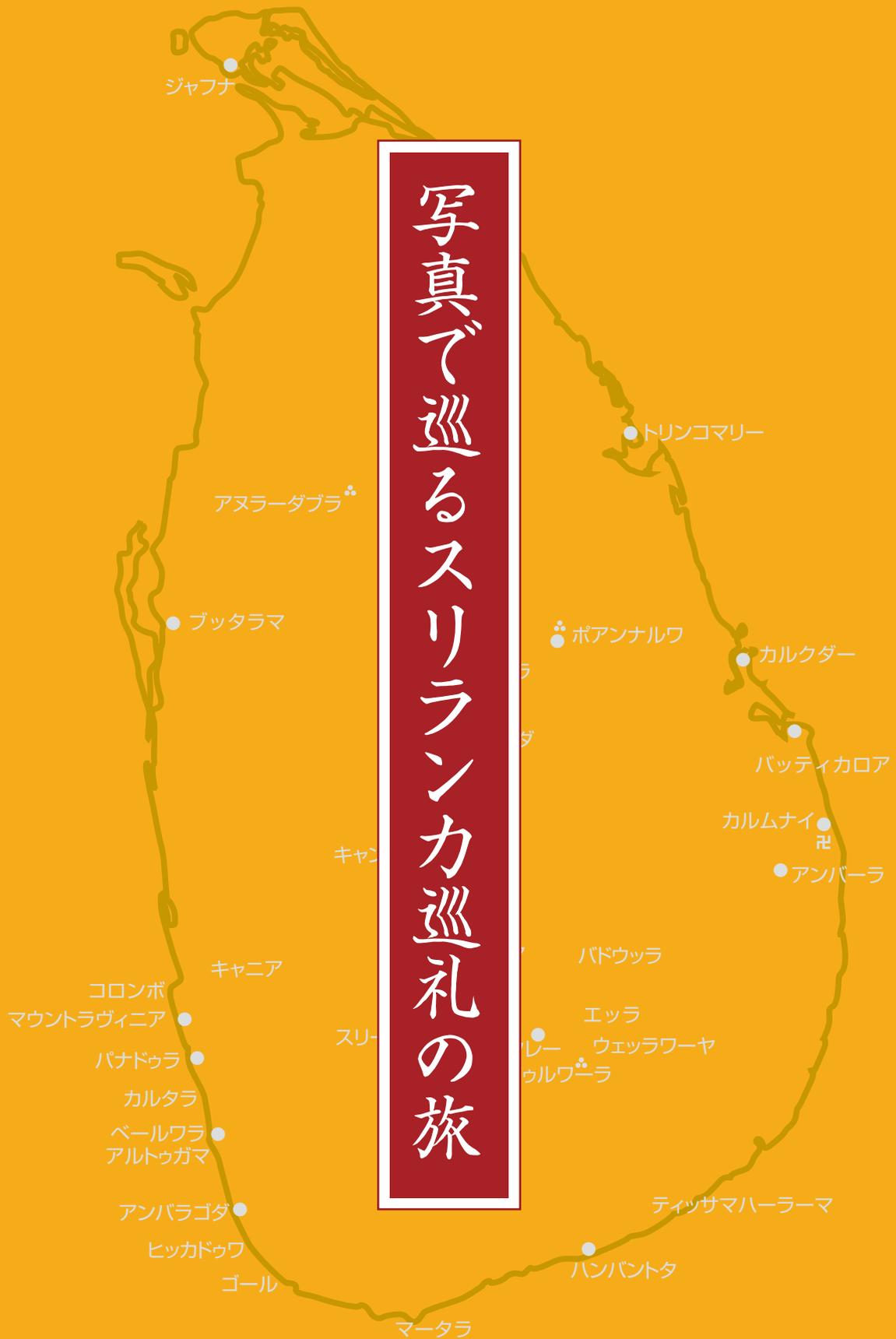


写真で巡るスリランカ巡礼の旅



5.15 ~ 16



Kelaniya



Kalutara



ボディツリー ハスの花を捧げ参拝



カルタラ ボティヤ



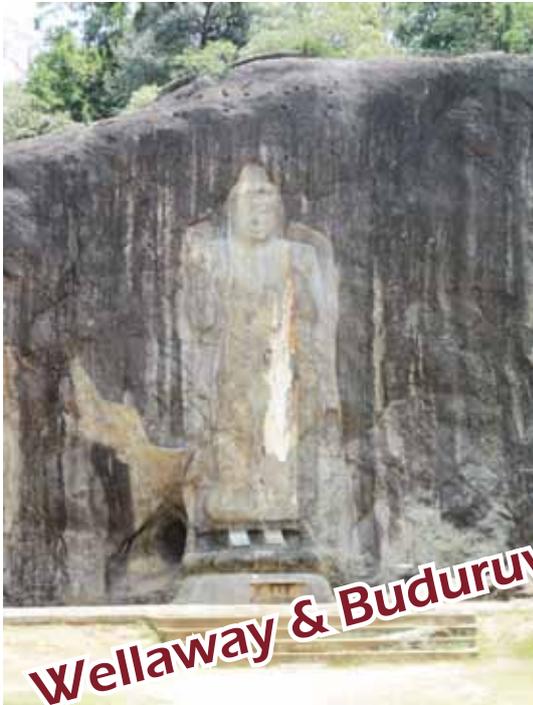
ゴール ロード



Galle

5.19 ~ 22

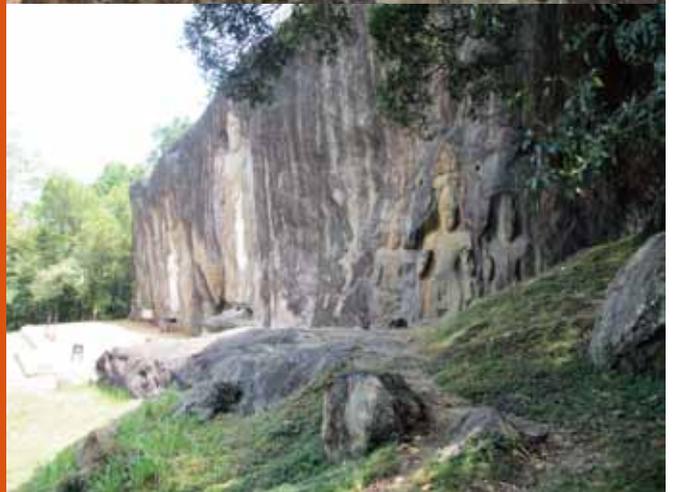
Matara



Wellaway & Buduruvagala



かつて、スリランカで大乘仏教を信仰する時代があった。
その証となる遺跡がジャングルの中に残っている。





霞んで見えるスリー・パーダ頂上

5.23 ~ 26

Sri Pada (Adams Peak)

スリランカ随一の聖地。
ここから山岳信仰が始まっているようだ。



ここを登る。本来 11 月～ 5 月の満月までが巡礼に適しているとされており、それ以外の時期の登山は避けたほうがいいところに暴風雨の最中、登山決行とは…。



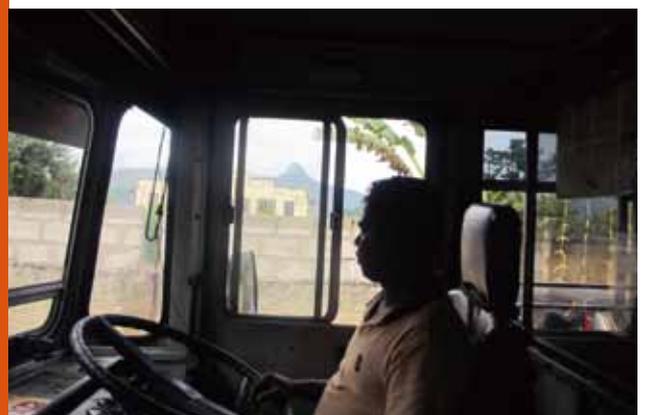
頂上にある、この鐘を鳴らす。
万感の思いが



聖なる山スリー・パーダとの別れ



下山してほっとしたひとときでした



バスから見えるスリー・パーダに、ちょっぴりつらい思いが…。



キャンディ湖
このほりに建つ仏歯寺は、仏教徒であるシンハラ人にとって、
仏陀の歯を安置する寺の存在は、民族の最高の象徴といえる。

5.27 ~ 29
Kandy



多くの僧が集まりスリー・パーダのメッセージを誉める。



仏歯寺にある八角形の堂



Anuradhapura



スリー・マハー菩提樹



5.29 ~ 30

アヌラーダプラ、今から約 2500 年以上も前に、スリランカ最古の都があったところ。仏教はここからスリランカ全土へ、そしてミャンマー、タイ、カンボジアへと、世界全土に拡がっていった。



Anuradhapura



イスルニヤ精神舎の本堂脇にある宝物殿にある恋人の像

ルワンヴェリ・サーヤ大塔



ジャングルの中に



Mihintale



インビテーションロック

5.30

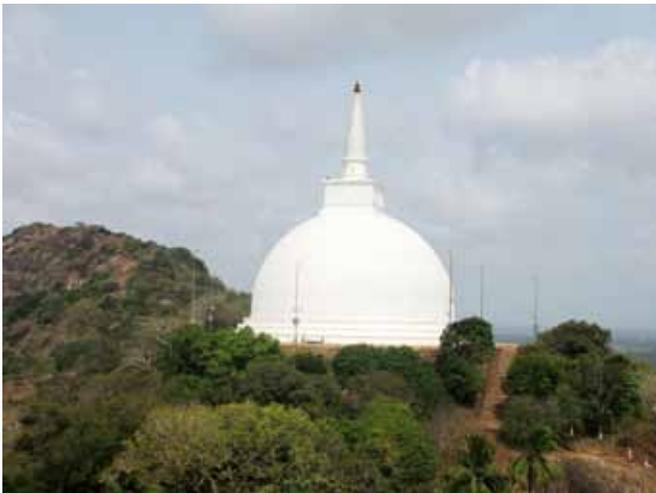


ミヒンタレーはスリランカで最初に仏教が伝えられたとされる聖地。毎年6～7月ににかけてのお祭りに何千人の信者が国中から集まってくる。



アムバスタレー大塔

Mihintale



マハー・サーヤ大塔
釈迦の髪が祀られている。



近年に建てられた新しい仏像



国際梵字センター





岩山の麓にある黄金の大仏

5.31

岩山に建てられた石窟寺院



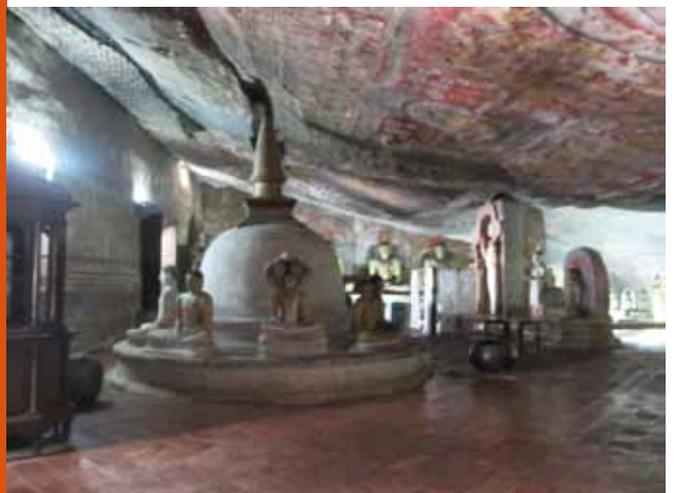
Dambulla



第一窟 涅槃像 14m

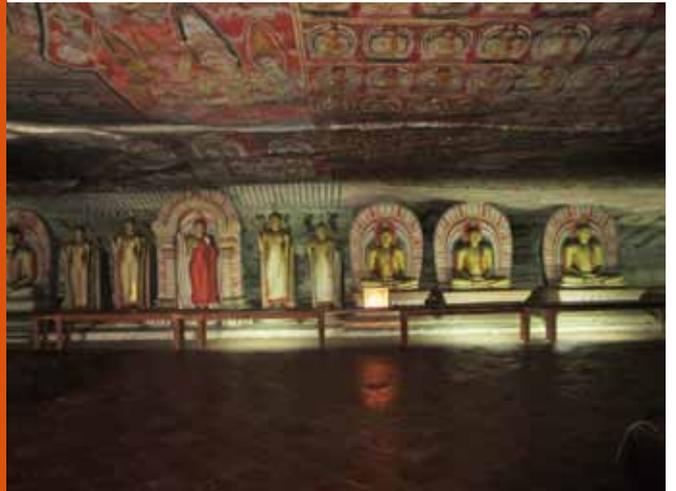


仏足の裏、真っ赤な花火の花模様





5.31



五体の仏像



Dambulla



壁画



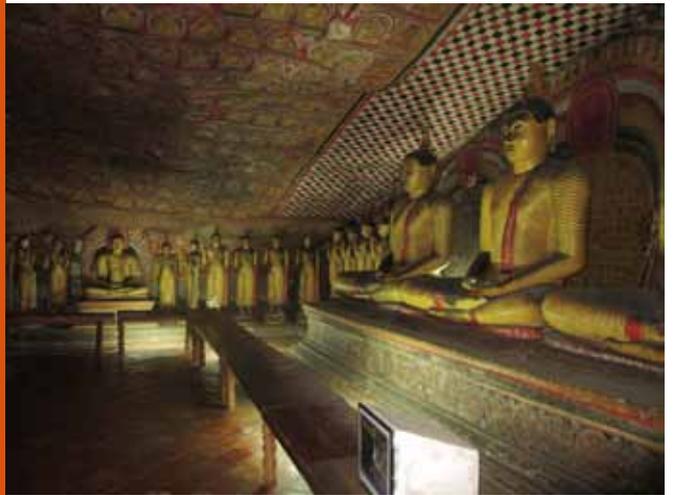
仏陀とヴィシュヌがともに

5.31



Dambulla

第一窟から第五窟の中に仏像や壁画が…



天井から聖水が…どこから湧き出ているかわからない



ジャングルの中

6.1 Sigiriya



美女のフレスコ画



ライオンの入口 足だけが残る

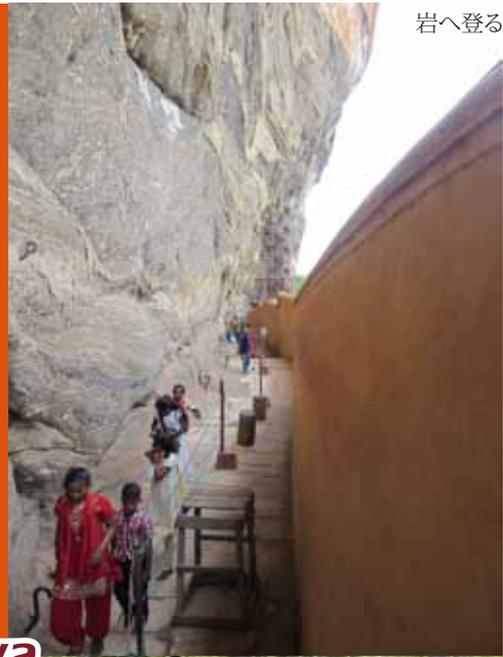


シーギリアロックの下に広がる水の広場

6.1 ~ 6



岩の上の宮殿の基礎



岩へ登る階段

Sigiriya



この岩の上に宮殿が



蓮の水路

Trincomalle



ビジョンアイランドビーチ

Batticaloa





ムティヤンガナ・ヴィハーラのライトアップ



6.10 ~ 9
Badula



夜の説法



内部の様子



Kalutara



6.9 ~ 11



Ambalangola



Alutgama



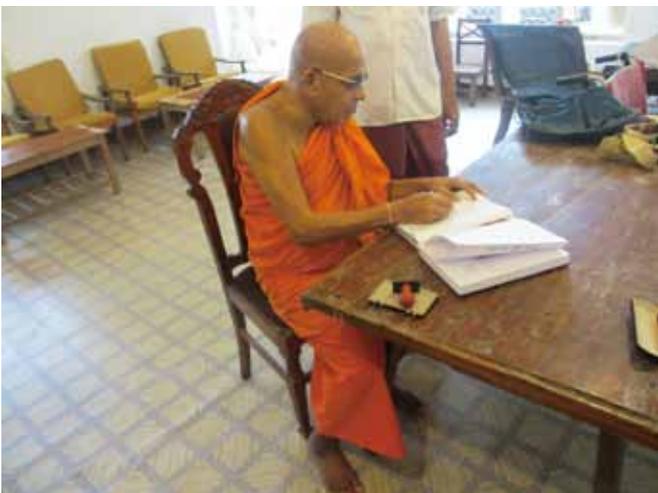
6.11 ~

Alutgama



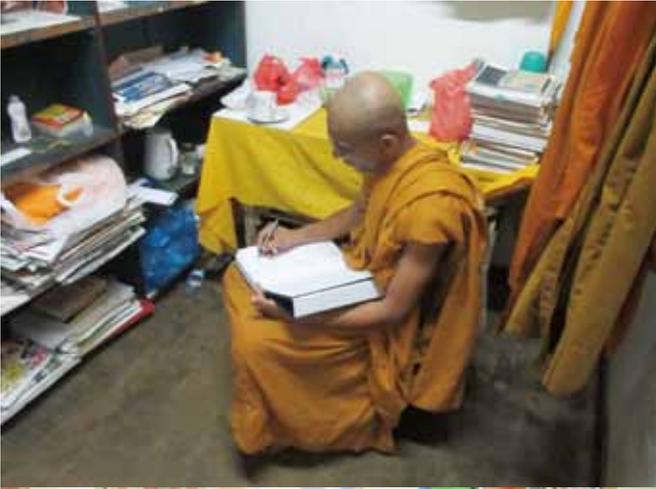
6.11 ~

Alutgama



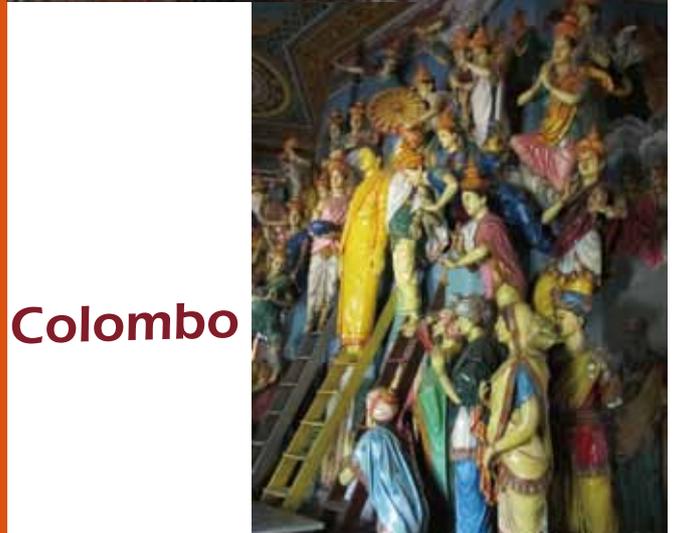
6.12 ~

Mt.Lavinia





6.13 ~

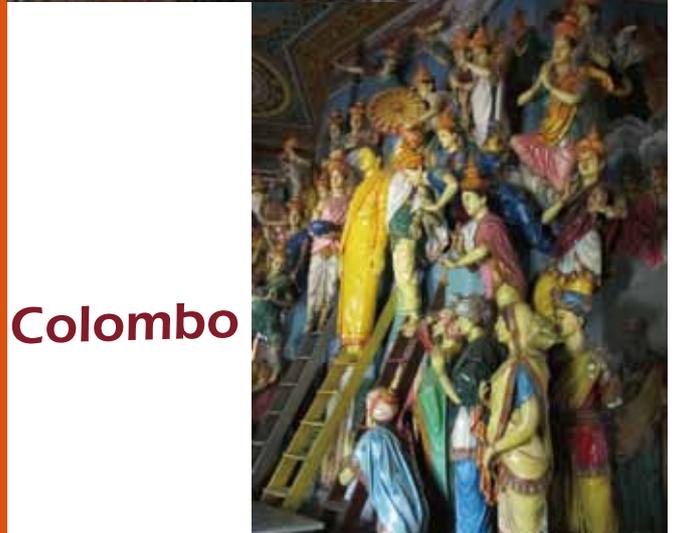


Colombo





6.13 ~



Colombo



6.15
Colombo



コロンボで最後にお世話になった方と
おかげでスリランカの疲れも
ふっとびました。

スリランカに合掌

スリランカにおける密教の痕跡

スリランカは現在上座部仏教の国として国民の多くが仏教を信仰し、寺院も数多く存在し、幼少期から出家生活をする僧侶も大勢いて、経済面では発展途上にあるものの精神的に豊かな仏教国として国家が存在している。上座部仏教が息づき人々の生活の中に自然と溶け込んでいる信仰形態は、日本の仏教信仰とはだいぶかけ離れているように思える。

もとより日本は仏教がインド、中国、朝鮮と北に伝わった大乘仏教の信仰形態でありスリランカとは異なったものであることは当然である。しかしスリランカにかつて大乘仏教が栄えた、しかも密教も信仰されていた痕跡を見たとき、仏教そのものの繁栄、衰退、信仰形態というものが、伝播の違いという単純なものでないように思えてならない。

スリランカにおける大乘仏教・密教の痕跡が見られるのはブドウルワーガラ（Buddurugala）の石仏群であります。スリランカの大乗仏教は8世紀中頃、アヌラーダプラ（Anuradhapura）期に首都アヌラーダプラを中心に世界的大乘仏教の拠点として繁栄を極めていましたが、12世紀にパラークラマバーフ1世の制圧によって滅びてしまいます。アヌラーダプラには大乘仏教の痕跡はほとんど残っていません。ところがブドウルワーガラにその痕跡がはっきりと残っていたのです。

ブドウルワーガラはウエッラワーヤとテイッサマハーラーマを結ぶ道路から5キロほど入ったジャングルの中にひっそりとしかし毅然と存在している。ブドウルワーガラはBudu=仏陀、ruva=像、gala=石で石仏を意味しています。巨大な岩の中央に高さ15m程の仏陀像、その左右に12m程の3体ずつの観音像を中心にした菩薩像が並んでいる。向かって一番右奥の像の右手を見ると、そこにははっきりと金剛杵を持っているのがわかります。密教の仏に出会った瞬間です。



お大師様が日本に密教を流布した頃、時を同じくして遠く離れたこのスリランカの地で誰がどうしてこんな奥地にこの密教の仏を作り上げたのか・・・

スリランカにあってこの磨崖仏の表情に出会い何かホッとするのは、日本で見慣れた密教の仏様そのものだからでしょうか。

スリランカで大乘仏教が一時期栄えたが、制圧とはいえ僅かな痕跡を止めるのみで消え去ってしまったのはなぜだろうか？

同じように日本で上座部仏教が入ってきたらどうなっていただろうか。おそらく日本では上座部仏教が消え去っていった事と思います。

仏教に限らず宗教というものは人種、民族によって受け入れられ方は様々です。

スリランカのように王家の勢力争いにより大乘仏教が消えていくのも、大乘仏教より上座部仏教の方がスリランカの人々に受け入れやすいものだったのでしょう。

日本に大乘仏教が根付いたのも、日本人にとって受け入れやすい宗教であったからだと思います。

日本の長い歴史の中で大乘仏教が連綿と受け継がれていることがそれを証明してくれているのだと思います。

日本人にとって大乘仏教が受け入れられたのはどうしてなのか？。スリランカを巡って何となく分かる気がするのです。

確かにスリランカは円熟した上座部仏教が人々の中で信仰され、揺るぎない仏教国であります。国中に寺院、仏塔、仏像、仏画があふれています。しかし日本人の私には違和感があります。それが長年日本仏教に慣れ親しんで来たからかという、どうもそうではないような気がするのです。スリランカの仏像に囲まれながら心身の奥の方で、大乘仏教の仏様に癒される感覚と違うぞという違和感なのです。

ただ、今の日本における大乘仏教の信仰形態が良いのかというと決してそうは思いません。大乘仏教の癒しが人々に浸透しているとは思えないのです。ましてや宗教者という立場に立ったとき、出家生活とは程遠い日常に甘んじている自分を含め大多数の日本の僧侶が、スリランカをはじめとする上座部仏教の僧侶に見習うべき点は多々あるのではないのでしょうか。

スリランカにおいて上座部仏教が国民生活に自然に溶け込んでいるように、大乘仏教が日本国民の生活に自然に溶け込んでいた時代は戻ってくるのでしょうか？

平成 24 年 10 月 21 日

東寺真言宗宗務総長

橋本 尚信

平成 24 年 11 月 12 日 印刷

平成 24 年 11 月 21 日 発行

岸 好猛

佛國スリランカ巡礼

発行 福田寺

〒250-0854 神奈川県小田原市飯田岡257

電話 0465(36)2755 FAX 0465(37)6688

【非売品】